

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	建築学科（2年制）	夜・通信	13単位 (300時間)	7単位 (160時間)	
	建築デジタルデザイン学科（2年制）	夜・通信	13単位 (300時間)	7単位 (160時間)	
	空間デザイン学科（2年制）	夜・通信	13単位 (300時間)	7単位 (160時間)	
	建築施工学科（2年制）	夜・通信	13単位 (360時間)	7単位 (160時間)	
	土木工学科（2年制）	夜・通信	10単位 (240時間)	7単位 (160時間)	
	建設エンジニア学科（2年制）	夜・通信	10単位 (240時間)	7単位 (160時間)	
	ガーデンデザイン学科（2年制）	夜・通信	8単位 (180時間)	7単位 (160時間)	
	専科2級建築士科（1年制）	夜・通信	9単位	4単位	
	専科1級建築士科（1年制）	夜・通信	12単位	4単位	
	建築・デザイン学科（2年制）	①夜・通信	11単位 (240単位)	4単位 (90時間)	

（）内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を併記している。

【募集停止】

令和7年度から建設エンジニア学科（2年制）を募集停止とした。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/02/curriculum_list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.syusei.ac.jp/jyoho/organization_location/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役 (1995. 12. 1～)	2022年4月1日から令和11年度定時評議員会の終結の時まで	広報および法人の運営に関する確認と指導
非常勤	会計士事務所経営 (2001. 2. 1～)	2022年4月1日から令和11年度定時評議員会の終結の時まで	財務体制に関する確認と指導
非常勤	株式会社 取締役 (2009. 12. 1～)	2022年4月1日から令和11年度定時評議員会の終結の時まで	法令遵守に関する確認と指導
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【作成について】 カリキュラム(授業科目及び内容)および授業計画(シラバス)については、授業評価アンケートや教育課程編成委員会の意見をもとに教員会議・科会を経て、科長・事務局長会議から、カリキュラムの設定・授業内容についての検討や検証をもとに、各授業を担当する科目主任教員と各学科長が授業計画(シラバス)を作成する。 授業計画(シラバス)は統一した様式で作成する。授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。 【時期について】 次年度の授業計画(シラバス)は2月～3月に科目主任教員と各学科長が作成している。4月中旬に、翌年度分のシラバスをHPに公開する。	
授業計画書の公表方法	カリキュラム(授業科目及び内容)・授業計画(シラバス)掲載ページ： https://www.syusei.ac.jp/jyoho/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

試験について

本試験は、前期末と後期末に行う。

各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。

再試験・追試験を実施する場合がある。

学業成績評価の基準

学業成績の評価は、次のとおりとする。

(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。

(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。

成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
可否	合格				不合格

(注)

1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の 3 分の 2 に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。

なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) G P Aの「総合評価表」は、次のとおりとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>GPA</th><th>総合評価</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.00</td><td>大変優秀な成績</td></tr> <tr> <td>3.00</td><td>優秀な成績</td></tr> <tr> <td>2.50</td><td>良好な成績</td></tr> <tr> <td>2.00</td><td>努力が必要</td></tr> <tr> <td>1.00</td><td>より一層の努力が必要</td></tr> </tbody> </table> (1) G P Aの表記と計算 GPA は、GPA 総合評価表に基づき、それぞれの科目に評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じた積の合計を、履修登録科目の総単位数で除して算出し小数点第2位まで表記する。(小数点第3位を四捨五入) GPA は、学業成績簿につぎの2種類の方法で算出した数値を表記し運用する。 ① T-GPA (総累計) : 入学後からこれまで履修登録した科目の成績を基礎数値として算出 ② Y-GPA (当該年度) : 各年度に履修した科目の成績のみを基礎数値として算出 (2) GPA の計算式は次のとおりとする。 $GPA = \frac{GP \times \text{当該科目単位数の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数}}$		GPA	総合評価	4.00	大変優秀な成績	3.00	優秀な成績	2.50	良好な成績	2.00	努力が必要	1.00	より一層の努力が必要
GPA	総合評価												
4.00	大変優秀な成績												
3.00	優秀な成績												
2.50	良好な成績												
2.00	努力が必要												
1.00	より一層の努力が必要												
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公開 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system/												
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 本校は、「国土建設に貢献する有能な建設技術者を養成する」ことを理念にディプロマ・ポリシーに示すスタンス (姿勢) ・スキル (能力) を有する人材養成に取り組んでいる。 - 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の3分の2に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 - 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 - 第1本科 (昼) 建築学科・建築デジタルデザイン学科・空間デザイン学科・建築施工学科・土木工学科・建設エンジニア学科・ガーデンデザイン学科、建築・デザイン学科の学生は、卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。													
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページにて公開 https://www.syusei.ac.jp/jyoho/system/												

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	修成建設専門学校
設置者名	学校法人修成学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/08/balance-sheet.pdf
収支計算書又は 損益計算書	https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/08/cash-flow.pdf
財産目録	https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/08/property_inventory.pdf
事業報告書	https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/08/business-report.pdf
監事による監査 報告（書）	https://www.syusei.ac.jp/wp-content/themes/syusei/assets/pdf/jyoho/08/audit-report.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科（2 年制）		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	86 単位 (1728 時間)	73 単位 (1670 時 間)	26 単位 (666 時 間)	7 単位 (304 時 間)	0 単位 0 時間	0 単位 0 時間	
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
300 人		334 人	150 人	5 人	27 人		32 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受検、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
98 人 (100%)	49 人 (50.0%)	47 人 (48.0%)	2 人 (2.0%)
(主な就職、業界等) (株)アイ工務店、(株)フジタ、タマホーム(株)、鉄建建設(株)、東レ建設(株) 積水ハウス建設関西(株)、コーナン建設(株)			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 2級建築施工管理技術検定第一次検定、大工技能士、福祉住環境コーディネーター検定、福祉住環境コーディネーター検定、カラーコーディネーター検定スタンダードクラス、建築 CAD 検定、パース検定、リフォームスタイリスト、建築積算士補、ビジネス能力検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
260 人	13 人	5.0%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築デジタルデザイン学科（2年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	84 単位 (1792 時間)	67 単位 (1610 時 間)	25 単位 (694 時 間)	7 単 位 (304 時 間)	0 単位 (0 時間)	0 単位 (0 時間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		73 人	31 人	2 人	7 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要）					
授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。					
授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要）					
試験について					
本試験は、前期末と後期末に行う。					
各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。					
再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準					
学業成績の評価は、次のとおりとする。					
(1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。					
(2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
(注)					
1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。 ただし GPA の算定においては不可を含める。					
2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20 人 (100%)	5 人 (25.0%)	15 人 (75.0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)アイ工務店、(株)池下設計、(株)東建築積算士事務所、(株)賃住 淡路土建(株)、(株)DAISHO ホールディングス			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級建築施工管理技術検定第一次検定、福祉住環境コーディネーター検定 インテリアプランナー、建築 CAD 検定、パース検定、リフォームスタイリスト 商業施設士補、建築積算士補、ビジネス能力検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61 人	6 人	9.8%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	空間デザイン学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	83 単位 (1760 時間)	64 単位 (1466 時間)	27 単位 (774 時 間)	7 単位 (304 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		93 人	34 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。 学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 (1) 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 (2) 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。	
成績評価	優
点数等	100～90
GP	4
可否	合格
良	89～80
可	79～70
不可	69～60
不可	59～0
不可	0
不可	不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。	

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29 人 (100%)	7 人 (24.1%)	22 人 (75.9%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)DOORDO、(株)アヤベ、(株)住之江工芸、(株)榎谷設計、(株)飯田産業、(株)大阪田建			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級建築施工管理技術検定第一次検定、福祉住環境コーディネーター検定、パス検定カラーコーディネーター検定、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター建築 CAD 検定、商業施設士、リフォームスタイリスト、商業施設士補、建築積算士補ビジネス能力検定 3 級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83 人	10 人	12%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築施工学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	90 単位 (1760 時間)	62 単位 (1478 時間)	27 単位 (698 時 間)	7 単位 (208 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		63 人	22 人	3 人	4 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	3 人 (21.4%)	11 人 (78.6%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)今西組、(株)銭高組、栗本建設工業(株)、高松建設(株)			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級建築施工管理技術検定第一次検定、大工技能士、左官技能士、建築 CAD 検定 パス検定、リフォームスタイリスト、建築積算士補、ビジネス能力検定 3 級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	3 人	6.3%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	土木工学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	91 単位 (1728 時間)	110 単位 (2099 時 間)	22 単位 (509 時 間)	7 単位 (408 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		45 人	22 人	3 人	7 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																								
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。																								
成績評価の基準・方法																								
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。																								
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。																								
<table><tr><td>成績評価</td><td colspan="2">優</td><td>良</td><td>可</td><td>不可</td></tr><tr><td>点数等</td><td>100～90</td><td>89～80</td><td>79～70</td><td>69～60</td><td>59～0</td></tr><tr><td>GP</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>合否</td><td colspan="4">合格</td><td>不合格</td></tr></table>	成績評価	優		良	可	不可	点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	GP	4	3	2	1	0	合否	合格				不合格
成績評価	優		良	可	不可																			
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0																			
GP	4	3	2	1	0																			
合否	合格				不合格																			
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。 ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。																								

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)NIPPO、日本道路(株)、村本建設(株)、大鉄工業(株)、日本橋梁(株)、(株)東海サンユーテクノス、			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士補、2 級土木施工管理技術検定第一次検定、ビジネス能力検定 3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34 人	2 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建設エンジニア学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	87 単位 (1760 時間)	96 単位 (1976 時 間)	27 単位 (456 時 間)	8 単位 (486 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		6 人	0 人	3 人	7 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																								
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。																								
成績評価の基準・方法																								
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。 学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。 <table><tr><td>成績評価</td><td colspan="2">優</td><td>良</td><td>可</td><td>不可</td></tr><tr><td>点数等</td><td>100～90</td><td>89～80</td><td>79～70</td><td>69～60</td><td>59～0</td></tr><tr><td>GP</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>可否</td><td colspan="4">合格</td><td>不合格</td></tr></table> （注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。 ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。	成績評価	優		良	可	不可	点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	GP	4	3	2	1	0	可否	合格				不合格
成績評価	優		良	可	不可																			
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0																			
GP	4	3	2	1	0																			
可否	合格				不合格																			

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株) 吉川組、(株) 村上ホールディングス、(株) 富島建設			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士補、2 級土木施工管理技術検定第一次検定、ビジネス能力検定 3 級			
(備考)（任意記載事項） 令和 7 年度から建設エンジニア学科（2 年制）を募集停止とした。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3%
(中途退学の主な理由) 一身上都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ガーデンデザイン学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	77 単位 (1856 時間)	59 単位 (1464 時間)	21 単位 (712 時 間)	9 単位 (208 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		30 人	3 人	3 人	6 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																								
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。																								
成績評価の基準・方法																								
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。																								
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。																								
<table><tr><td>成績評価</td><td colspan="2">優</td><td>良</td><td>可</td><td>不可</td></tr><tr><td>点数等</td><td>100～90</td><td>89～80</td><td>79～70</td><td>69～60</td><td>59～0</td></tr><tr><td>GP</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>可否</td><td colspan="4">合格</td><td>不合格</td></tr></table>	成績評価	優		良	可	不可	点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	GP	4	3	2	1	0	可否	合格				不合格
成績評価	優		良	可	不可																			
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0																			
GP	4	3	2	1	0																			
可否	合格				不合格																			
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。 ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。																								

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100%)	1 人 (6.7%)	13 人 (86.6%)	1 人 (6.7%)
(主な就職、業界等) 阪神園芸（株）、(株)タイキ、西日本高速道路メンテナンス関西(株)、 (株)森本庭園、(有) ビジエ、(株)フロリスト花正、			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級造園施工管理技術検定第一次検定、造園技能士、 カラーコーディネーター検定、エクステリアプランナー、ビジネス能力検定 3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34 人	2 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	専科 2 級建築士科 (1 年制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	31 単位	14 単位	23 単位	4 単位	0 単位	0 単位
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		65 人	6 人	3 人	7 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1）学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2）学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
45 人 (100%)	13 人 (28.9%)	31 人 (68.9%)	1 人 (2.2%)
(主な就職、業界等) 住友不動産ハウジング(株)、(株)安井建築設計事務所、(株)西建設計、 (株)婦木建築設備事務所、(株)ヤマトクリエイション、住友林業クレスト(株) パナソニック建設エンジニアリング(株)、住友林業ホームテック(株)			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 二級建築士、2 級建築施工管理技術検定第一次検定、福祉住環境コーディネーター検定 カラーコーディネーター検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57 人	3 人	5.3 %
(中途退学の主な理由) 一身上都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	専科 1 級建築士科 (1 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	36 単位	20 単位	21 単位	4 単位	0 単位	0 単位	
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人		19 人	0 人	3 人	2 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。 ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。 なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
28 人 (100%)	1 人 (3.6%)	27 人 (96.4%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)アイ工務店、(株)綜企画設計、(株)藤田建築設計事務所、(株)新都計画、(株)日本確認検査センター			
(就職指導内容) 進路に関する就職、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 一級建築士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	2 人	6.5 %
(中途退学の主な理由) 一身上都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築・デザイン学科 (2 年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	87 単位 (1712 時間)	73 単位 (1454 時 間)	26 単位 (434 時 間)	7 単位 (352 時 間)	0 単位 (0 時 間)	0 単位 (0 時 間)
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		59 人	0 人	3 人	19 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要） 授業計画（シラバス）については、業界関係者からなる教育課程編成委員会の意見をもとに学校長・学科長・教員と協議のうえ作成し、科長・事務局長会議を経て3月中旬にホームページにて公表する。 授業計画（シラバス）は統一した様式で作成し、授業科目名、対象学科および履修学年、必要時間数、担当教員名、授業の目標・ねらい、授業計画（各回の授業プラン）、成績評価方法・評価観点、教科書及び参考書に関する事項は、全科目共通で記載することとなっている。					
成績評価の基準・方法					
（概要） 試験について 本試験は、前期末と後期末に行う。 各科目で教育上必要ある場合は随時試験を行い、その結果を学業成績評価に加味することがある。 再試験・追試験を実施する場合がある。					
学業成績評価の基準 学業成績の評価は、次のとおりとする。 （1） 学業成績は、試験の成績のほか、日頃の「ミニテスト」、「確認テスト」等の試験の成績に修学状況等を考慮して決定する。 （2） 学業成績の評価基準および表示は、次のとおりとする。					
成績評価	優		良	可	不可
点数等	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4	3	2	1	0
合否	合格				不合格
（注） 1. 学校内部での学業成績は点数で表し、外部への発表は成績評価で表し不可は発表しない。ただし GPA の算定においては不可を含める。 2. 学年において、各科目の定期試験等非受験、レポート・課題未提出および出席すべき時間数の3分の2に達しないときは、その科目を出席時間不足とし、点数をつけない。なお、出席すべき時間数とは、予定時間数または実施時間数の多い方とする。					

卒業・進級の認定基準
(概要) 下記の基準により進級卒業判定会議で学校長の確認・決定のうえ認定する。 1. 定められた教育課程を修得しなければ進級または卒業することができない。 2. 1 学年の出席日数が、出席すべき日数の 3 分の 2 に達しない場合は、進級または卒業することができず、次年度において全科目を再受講しなければならない。 3. 一部科目を修得できず進級または卒業することができなかった場合は、次年度においてその科目だけを再受講しなければならない。 ただし、所定の申請により全科目の再受講を希望すればその限りではない。 4. 卒業設計に合格しなければ、他の科目の単位決定に関係なく、卒業することができない。(要)
学修支援等
(概要) 本校入学後の学習準備としての入学前教育を実施している。新入生ガイダンスではオリエンテーションのほか、基礎学力と学習状況の調査を実施し、苦手科目の克服に活用している。 クラス担任制を設け授業内容の質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるためのオフィスアワーを有効活用している。また担任は科目担当者と出欠状況や授業態度を共有し、適宜本人または保護者に連絡している。 学校生活が充実するよう学科間、学年間交流をはかるクラブ活動なども行っている。 学生相談室は、抱えている悩みや問題について、学生相談員（心理カウンセラー）がそれぞれのケースに応じ、その解決のために助言する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35 人 (100%)	2 人 (5.7%)	28 人 (80.0%)	5 人 (14.3%)
(主な就職、業界等) (株)アイ工務店、(株)フジタ、タマホーム(株)、鉄建建設(株)、東レ建設(株) 積水ハウス建設関西(株)、コーナン建設(株)			
(就職指導内容) 進路に関する就職、専科進学、大学編入などの進路支援活動を組織的な体制で行っている。定期的な進路ガイダンスだけでなく、キャリアデザインの相談、エントリーシートの書き方、個人面談や面接指導等におけるキャリアサポート支援は、クラス担任と進路係職員が連携を密に行っている。 職業理解・業界研究のためにオンラインによる合同企業説明会や学内セミナー、インターンシップ等を積極的に行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 福祉住環境コーディネーター検定、建築 CAD 検定、宅地建物取引士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	6 人	24.0%
(中途退学の主な理由) 一身上都合、病気・ケガ、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任指導や教員連絡会での情報共有。専門カウンセラーによる面談。保護者と密に連携を行っている。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
建築デジタルデザイン学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
空間デザイン学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
建築施工学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
土木工学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
建設エンジニア学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
ガーデンデザイン学科 (2 年制)	100,000 円	1,050,000 円	10,000 円	
専科 2 級建築士科 (1 年制)	120,000 円	750,000 円	10,000 円	
専科 1 級建築士科 (1 年制)	120,000 円	850,000 円	10,000 円	
建築・デザイン学科 (2 年制)	70,000 円	500,000 円	10,000 円	夜
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/jyoho/
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) 【学校関係者評価】 委員会において、自己評価の結果を踏まえた学校関係者評価を実施し、その結果を公表することで説明責任を適切に果たす。また、学校関係者等の理解と参画を得ながら、地域のステークホルダーと専修学校が連携・協力し、特色ある学校づくりを推進する。 【評価項目】 基準 1(教育理念・目的・育成人材像)、基準 2(学校運営)、基準 3(教育活動) 基準 4 (修学成果)、基準 5(学生支援)、基準 6(教育環境) 基準 7(学生の募集と受け入れ)、基準 8(財務)、基準 9(法令等の遵守) 基準 10(社会貢献) 【開催時期】 11 月、2 月

【活用方法】 自己評価ならびに学校関係者評価結果を真摯に受け止め、校長が率先して改善を図るべき事項を整理し、その内容を全教職員で共有することで、今後の学園運営の充実・強化に努める。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
卒業生の保護者	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	保護者
元 吹田市理事	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	団体役員
株式会社ジェイネット 代表取締役	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	企業等委員
株式会社福本設計 相談役	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	企業等委員
おおさか緑と樹木の診断協会 理事長	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	企業等委員
大和田連合振興町会長	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	地域役員
神港学園高等学校 学校長	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	教育関係者
壺山建設株式会社 取締役社長	2023 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 (任期更新)	企業等委員
第三者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/jyoho/		
(備考)		
第三者評価は実施しておらず、評価の基本方針および評価の委員については学校関係者評価の内容を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.syusei.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310000111
学校名（〇〇大学 等）	修成建設専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人修成学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		166人（ 83 ）人	149人（ 71 ）人	171人（ 88 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	58人	43人	
	（うち多子世帯）	（ 19人）	（ -人）	
	第Ⅱ区分	21人	22人	
	（うち多子世帯）	（ -人）	（ -人）	
	第Ⅲ区分	11人	12人	
	（うち多子世帯）	（ -人）	（ -人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	20人	20人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	23人	20人	
	区分外（多子世帯）	33人	32人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				171人（ 88 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	—	—
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	—
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	—	—
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	—	—
計	人	11人	16人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	—

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	0人	30人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	14人	27人
計	人	14人	41人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。